

褐色娘の薄々な絵本②

暗中模索

Adult Only

R-18

成人向

フランジさん
お届け物です

ああ
ありがとう

じゃ、失礼します

ああ、メルティ君
ちよつと
待ちなさい

はい？

……

あの、何か？

君のお爺さまからだ

爺ちゃんから？

また船主連の
上納金を2割ほど
待って欲しいそうだ

フム……

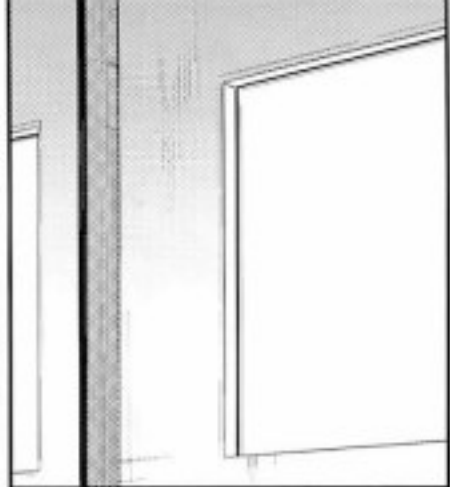
苦しいのはわかるが
毎月こうでは
困るよ

あ、あのっ！













ではおじいちゃんの
底力を見せてあげよう



だ、ダメですっ

あっ

そんなに引き回したら…あっ

あっ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

あああ

しゃ

しゃ

しゃ

派手にイッたね

ポッ

まだ14歳ののに
こんなにイヤらしく
育ってしまったて

ハイ

お父上もさぞ悲しかろう…
いや喜んでるかな？

ハイ

ひ、ヒドイですフランジさん
フランジさんがいつも
こんなことするから…

私、こうなっちゃったんですよ？

おう、そうだったか

責任取って…
早くソレ挿れてください

おや
イッたばかりなのに
もう我慢できないのかね？

んっ…

だって私、フランジさんに
イヤらしい子に
育てられちゃったから…

じゃあ
イヤらしい子らしく
イヤらしくおねだり
してみなさい

そのガチガチの
おじいちゃんち○ポで

くほっ♡

私の処女を
奪ったときみたいに
おマ○コを
ガシガシ突いて

子宮をグチャグチャに
掻き回してください





あ、
だってみんな……んっ
私のこと子供扱いして……
相手にしてくれないんです

あ、

ハハハ
そうか

まだ14歳だからね
ムリもないか

あ、
あ、
あ、
あ、



あ、はい

しかし
メルティ君は
もう初潮は
きてるんだらう？

スマンスマン



フランジさんも
子供扱いして……



えっ？

では今日は
臍内^{へい}で出してあげよう

え……
あ、でも今日は……







そ、そんな…!



毎月、君の身体払いの分を私が肩代わりしてきたがそろそろ私もきつくてね

君に船団長に直に払ってもらいたんだよ



さ、船団長どうぞ

準備はもう万端です

やあ…



おお、さすが船団長！立派ですな！

や、やめてください…



うむ
こんな若い娘は
久しぶりだ

年甲斐もなく
興奮してしまったよ



おお
これがまだ初潮
間もない娘のマ○コか

締め付け具合が
リジットとは
比べものにならないな

そうでしょう船団長
思う存分挿き回して
やってください

うむ
遠慮なく

ん...

っ
っ

ずっ
っ



メルティ君といったかな？

はっ
はい...んっ

年はいくつだね？

じゅっ...
14です あっ

おお！
どおりで幼いはずだ

っ
っ



乳もまだ全然膨らんでないではないか

こ、これでも少しは成長したってフランジさんが…

ハハハ
そうなのか

あっ

おっ

おっ



ええ
では失礼して



船団長
私もお邪魔してよろしいですか

おおフランジ
口を使うといい



まったく若い娘は肌の艶といい弾力といい

なんともこう…
たまらんな

まったくです
やはりおなこは若い者に限りますな

ウム



それにしても
フランジ

君はいつから
この子と
こんな関係を?

この子の筋様が
どうしても上納金を
払えないと言うので
仕方なく

もう2年ほどに
なりますかな



そうか

では、それから
毎月、上納金の一部を
君が肩代わり
してきたのか

そうなんです
その頃はまだこの子も
つるつるのべったんこ
でしたか

今も似たような
ものではないか

ですな!
ワハハハ!



君の船団も
大変だなフランチよ

いえいえ
船団長の苦勞に比べれば
どうということはありません



瞳内まなこで出して
いいのかわ?

私が先に出したので
もう種はつかないかも
しれません

ええ
どうぞどうぞ
遠慮なく



ハハハ
ならば遠慮は
無用という訳か



君のような
すばらしい大船主に
出会えたことが
私の人生最大の幸運だな

ハハハ
お上手ですな

むう
そろそろイキそうだ





次の日

フレンジさん

おお
来たか

こっちの部屋へ
来なさい

いかがです
船団長？

？

うむ
三人ともビチビチしてて
よいではないか

君たちも
入りたまえ





ペベル君の病気のためにもたまにこうして抜いてあげた方がいいんじゃないかな

ペベル君はずっとこうすることを願っておった

欲求不満は身体によくない

そんなっ...でも...



やめてペベル!

これがお姉ちゃんのおっぱい...

ちう



だ、ダメえ! 最初はレドと...あっ

いゆの



ホレ、ペベル君...

いやあ...



押れられた... 初めてなのに...

ペベルの...弟のお子ちゃん...



あ
あ
あ

ぬ
ぬ
ぬ



想像以上じゃ！
うおっ



ウヒョッ
ずっと触って見たかった
サーヤ君のデカパイ！

やあー



さあ船団長！
開通の儀を！

ウム

ちよっ
私、まだ…

やっ

や、やめ…



船団長
この度はこのような
すばらしい趣向に
お招きいただき
ありがとうございます

いやいや
私はフランジの提案に
力を貸しただけじゃよ

いつも皆には
世話になっておるからな

幸せは皆で
享受したいというのが
私の願いでもある



なんといい
お心遣い……！
感謝いたしました！

まあそれも
メルティ君と
そのお友達の協力が
あればこそだ

ですな！
感謝の意味も込めて
彼女らにも満喫して
いただかねば！



船団長のお計らいで
上納金の不足分にも
少し足してください
さうだよ

お友達のお力もあって
皆とても
幸せそうだ

こらん



はい...



よい友達を
持ったね
メルティ君



ではエイミー君
にしようか

ハア

船団長
次はどの穴を
お試しになりますか？

ハア

いやはや社観ですな

ハア

ハア



褐色娘の薄尺な絵本②

この本は成年向けです。
18歳未満の方の閲覧・購入は
できません。



Adult Only
R-18
成人向

暗中模索